

1 事業目的	内田地区における自然環境の再生や過疎化対策に取り組む。
2 事業内容 & 事業成果	<p>◆森林の整備保全について</p> <ul style="list-style-type: none"> * 森林内の巨樹・古木の枝折れや倒木の撤去処理作業は例年実施してきたが、今年度は台風や水害等の自然災害により里山としての保全整備が大きく後退した。 枝折れや倒木は想像以上であり、単年での処理が困難なため計画的に処理整備していく。 枝折れ・倒木を活用した椎茸づくりは好評であった。 * 桜川周辺の「桜の名所づくり」は、昨年植樹した木のまわりの草刈り・竹刈を実施。 2年目も50本の苗木を用意したが、昨年植えたものも、台風により折れたりイノシシや水害の被害等、今後の教訓となったので造園業者の指導で補植を行った。補植に30本くらい使用した。 (米沢の森の事業予定チラシを配布していたので、子供達からは残念がられた。) <p>◆谷津田について</p> <ul style="list-style-type: none"> * 谷津としての稲作と景観を取り戻し、更に耕作放棄地の整備に着手し宿大木谷津を「生き物と米づくり」の美田とすべく、地域の観光資源化を目指した。 だが、昨年の台風と水害は想像を超えるものであり身も心も折れるくらいの状況となった。どこから手をつけて良いものかと思っただが、昔から百姓は自然との闘いで生きてきたことを思うと、農機具や重機を使っただけの農業はまだ甘いと考え、「谷津田の再生は、地域を守る。農業は地域を守る」と信じて頑張るしかない。 <p>◆イベントについて</p> <ul style="list-style-type: none"> * 地元の歴史文化の継承として、行燈祭り・諏訪神社の祭り・奉納相撲祭りは、地域に残る歴史・文化遺産として残したい。 奉納相撲も今では形だけとなり内田小学校の全校生徒の相撲大会となってしまった。 一地域の祭りとしてではなく、広報誌や地域新聞を活用して継続したい。 * 年中行事となっている、【初日を観る会】・【かぎろひを観る会】・【山桜と菜の花祭り】・【谷津田の米づくり】・【ダイヤモンド富士鑑賞会】・【里山体験活動】(チェーンソーの資格取得の実技の場として活用)・【風倒木を活用した椎茸づくり】を実施 * 「桜の名所づくり」は、新型コロナウイルスの影響でイベントとしては出来なかったが有志により開催した。 * 市原南消防署からの依頼で、米沢の森を使って林間救助訓練の場として活用された。 * 花立野広場に通じる道路の整備も、市の補助金で重機を借り整備したので車が進入できるようになった。 <p>その他</p> <ul style="list-style-type: none"> * 耕作放棄地の活用について 再生活用が困難であることが、ここにきて良く分かった。獣害・自然災害により大きな打撃を受けた。 耕作放棄地の谷津田の再生には、多額の費用と人手もかかり重い負担がかかった。 しかし、大木谷津の約3haは、持続可能な耕作地として復活させ、耕作放棄地解消のモデル地域となることを目指したい。 大木谷津は、一本柳の美しい谷津田として、周囲の森は神仏の宿る里山として残したい。

ア 千葉県環境再生に貢献する活動であったか	<p>*森林・谷津田・観光名所づくりは大きな成果となっていたのは事実である。重機など的高額な投資も無駄にしていない。</p> <p>*自然災害や獣害対策は、周辺地域の人達や行政と連携しながら強化できた。</p>
イ 一般県民の参加、支援が得られる活動となるように事業の周知ができたか	<p>*広報活動としてチラシの配布・メディアの活用・市原ケーブルテレビ・伝心柱・市の広報紙に取り上げられた。</p> <p>*千葉県森林課や、ちば里山センターが開催した「おいでよちばの里山で米沢の森が対象となった。県内外からの多くの参加があり、これまで以上の評価が得られた。</p> <p>*災害があったことで、全国的な活動をしている[大地の再生]からの復旧支援もあった。又、小湊鉄道からの災害見舞もあり、[大地の再生団体]と連携し、「養老川流域と小湊鉄道沿線の自然災害プロジェクト」を立ち上げ、米沢の森の保全整備に一役を担うことになった。</p>
ウ 既存の活動や他の団体等の活動と広く連携できる活動であったか	<p>多くの活動で連携できた。</p> <p>*市原市の花プロジェクト(菜の花の種まき) *南市原地域づくり</p> <p>*アートミックスとの連携</p> <p>*農業関係者との連携・農林業振興課、農業委員会・農協共済 他</p> <p>*県森林課・ちば里山センター</p> <p>*市原市の環境課</p> <p>*地元小学校の学童保育</p>
エ 活動の中で専門家、地元市町村の協力が得られたか	<p>*市原市農林業振興課、環境整備課の災害補助事業からの復旧活動についての指導と物資の提供があった。</p> <p>*農道の復旧で、市原市南部土木課の指導と支援</p> <p>*農業委員による耕作放棄地の再生指導と支援アドバイスがあった。</p> <p>*農業者からの農機具の中古品の提供や使用指導があった。</p> <p>*造園業からの苗木の植栽指導や、ちば桜の会からの苗木の寄付があった。</p>
オ 計画内容は実現可能な方法、手段であったか	<p>*計画の実施状況と、災害や獣害との闘いの中で進歩を目指したい。</p> <p>*知恵が支援の中で育っている。</p> <p>*実現可能なものである</p>
カ 収支計画は、計画の実行する上で妥当であったか	<p>*計画は妥当と思っている。</p> <p>自然災害や害獣対策も考えながらの計画もあるのか、参考となるものがあれば取り入れたい。</p>
キ 活動内容は継続性・発展性があるか	<p>*17年目の活動歴は大きな力となっている。</p> <p>整備した森林・景観地・山桜や菜の花を活用したイベントへの参加者が年々増えている。新たな参加者からの意見などが活動の励みとなっている。</p> <p>*災害で得られた支援で、知識や技能がさらに増えた。</p>
ク 活動目標の達成度はどうだったか	<p>*達成度は量だけでなく、質的に高くなっている。今年度は災害で失ったものもあったが、耕作放棄地の再生も50aも達成した。</p> <p>*「桜の名所づくり」も災害で植栽した苗木が台風で多く折れたり枯れたりしたが今年度補植を含め50本の苗木を植えた。来年も同様に増やしていきたい。</p>
ケ 成果をどのように活用するか	<p>*災害や獣害対策を充実していくことが、目標の上を目指すこととなる。これには多くの専門家・知識人との交流、指導を受けていく。</p> <p>*若者たちに自然や農業のことを知ってもらいそしてともに活動していきたい。</p>